

平成31年度事業計画書

(平成31年4月1日～平成32年3月31日)

1. 書道文化の普及（第4号事業関係）

春敬記念書道文庫収蔵品の展示及び貸出を行い、書道文化の普及を広く行う。

- (1) 平成31年4月29日(日)開催予定のかな書道作家協会主催の「第59回現代かな書道専門講座」において、4点ほど貸出す予定である。
- (2) 平成31年8月16、17日開催予定の「第71回毎日書道展」の関西巡回展(大阪市)の特別講習会において3点程度展示する予定である。
- (3) 平成31年10月14日(祝日)開催予定の一般財団法人日本書道美術院主催の「第38回書道教養講座」において、数点貸出す予定である。

2. 書道に関する展覧会の実施（第5号事業関係）

(1) 連合書道展、関東女流書展の実施

書道の奨励・育成を目的とした「第70回連合書道展 第33回関東女流書展」を平成31年9月1日(日)～9月8日(日)まで(但し、9月2日休館)、東京都美術館において開催する。連合書道展の参加団体は14団体になる予定である。関東女流書展の出品者は、昨年は203名であったがその増加を図る。両展併せての総点数は約800点前後となる予定である。また、例年好評を博している席上揮毫は、9月1日(日)午後1時より24名の揮毫者で開催の予定。

3. 書道専攻者の養成（第7号事業関係）

(1) 平安書道研究会の実施

日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を、期間は平成31年4月(832回)～平成32年3月(843回)まで、東京国立博物館平成館講堂を主会場にして開催の予定。講師陣は、池田和臣先生(中央大学教授)、笠嶋忠幸先生(出光美術館学芸課長)、高木厚人先生(大東文化大学教授・かな書道作家)、名児耶明先生(五島美術館副館長・学芸部長)、及び四辻秀紀先生(徳川美術館学芸部長)の5名である。また、臨書指導は、大賀晴苑先生、大林靖芳先生、慶徳紀子先生、新川晴堂先生、高橋孝春先生、松井玉箏先生、本橋郁子先生、渡辺墨仙先生、渡辺貴彦先生等、日本書道美術院の重鎮の先生方で行うが、今年度から外部の先生方にも加わってもらう予定である。

(2) 日本書道史研究講座の実施

日本書道史を体系的及び通史を中心に学ぶ日本書道史研究講座を平成31年4月～平成32年3月まで、東京国立博物館平成館を主会場にして開催の予定。

平成 31 年 5 月には、平成 28 年 5 月入学の第 60 期生 15 名が三か年の課程を終えて卒業の予定。卒業生には、特待生として引き続き留まってもらおうべく努力したい。なお、現在第 63 期の入学生を募集している。

(3) 臨書実技講習会の実施

今年度で 3 回目となる「臨書実技講習会」を秋に開催する。受講生の反応としては、普段の講習では聞けないような内容が少人数での個別指導などにより、忌憚なく質問でき有意義であるというもの。受講生の期待も高まっている。日にちと講師は決定しているが、会場及び当日のスケジュールは未定である。

開催日：2019 年 9 月 29 日（第五日曜日）

講師：松井玉箏先生

(4) 平安書道研究会受講生への臨書作品募集と展示

昨年度初めての試みとして、平安書道研究会の受講生から臨書作品を募集し、第 69 回連合書道展で展示(出品 34 名)を行い、出品者からも観覧者からも好評であった。第 2 回として、今年度も実施する計画である。

4. その他

(1) ホームページの立ち上げ

当社団でも一般社団法人への変更に伴い、予てよりホームページの立ち上げが懸案となっている。また、定款の第 39 条においてホームページ上での情報公開(電子公告)が求められている。本年度をもって、ホームページを立ち上げ、当社団の情報を公開し事業の世間への周知を図る。情報を公開することにより、①平安書道研究会の受講生の拡大 ②連合書道展での観覧者の増大 ③書道人口の拡大による書道界への裨益に資するなどの多くのメリットを見込むことができ、創立者飯島春敬先生の持論である「多くの書道人の育成」という趣旨にも合致する。

(2) 「講師を囲む会」の実施

平成 29 年度、30 年度と 2 回実施した。日ごろは、壇上からの一方的な講義しか聴く機会のない受講生に向け、講師の先生方を囲んで、親しく話の出来る機会をつくるという意図で開催したところ、大変好評であった。受講生が 60 名近く参加し講師の先生方と和気あいあいの中、意見交換が行われた。新規の受講生拡大の一環としても効果が見込まれ、今期も平成 32 年 2 月の平安書道研究会終了後の夕方から実施する計画である。